令和８年度　大学院連合教職実践研究科入学者選抜（7 月選抜）

教科研究開発高度化系
人間発達探究コース　人間発達探究プログラム
専門科目：プログラム別問題

【出題の意図】

解答の形式：教育学分野、心理学分野、幼児教育分野、特別支援教育分野から１分野を選択し、選択した分野の全ての問題に解答する（配点：問１，問２とも各 50 点）。

［教育学分野］

問１　この問いの出題意図は、現代の学校教育を取り巻く課題の一つである「教職員の働き方改革」について、具体的な取組とその背景にある構造的な問題を的確に理解しているか、また、自らの言葉で整理し論述する力を持ち得ているかを測ることにある。教育現場の実情や政策的動向に関心を持ち、単なる知識の羅列ではなく、具体的な改善の方向性や現場との接続を踏まえて考察できるかが問われるのである。教職を志す学生にとって、実践と理論の往還を意識する姿勢と時事問題に対する基本的な理解が求められている。

問２　不登校児童生徒を含む義務教育を十分に受けられない子どもたちに対して、教育の機会を保障することが喫緊の課題となっているが、近年、教育機会確保法が制定されている。この問題では、こうした法律を基軸としつつ、全ての子どもたちに十分な教育機会を提供するための学校と社会の役割について問うている。教員として立場にたちつつ、学校での支援と学校内外の連携、そして社会の仕組みと幅広い視点で実施すべき取り組みを記述させ、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

［心理学分野］

問１　心理学においては、実験法、質問紙法（調査法）、観察法、面接法などといった手法があり、それぞれの長所と限界点を理解し、研究目的に合った手法を用いることが重要である。問１では、授業実践の効果を検討するという特定の目的のために、これらの研究手法をどのように活用することがよいか、研究手法に関する基本的理解と教育実践への応用力を問い、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

問２　学齢期の幼児・児童・生徒への教育的支援においては心身の発達の過程や各年齢時期における発達的特徴を理解することが重要である。問２では、主に認知や思考に関する心理発達の代表的な理論である、ピアジェが提唱した発達段階説についての知識、理解およびその学校教育への示唆についての考え方を記述させることで入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

［幼児教育分野］

問１　幼児期の見立て遊びやごっこ遊びには、想像力や創造的思考、言語能力、社会性など、さまざまな力を育てる重要な意義がある。このような遊びの年齢による特徴および保育者としての適切な関わりについて記述させることで、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

問２　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、遊びを通して幼児が発達する姿を捉え、一人一人に必要な援助を考える上で重要な視点である。その一つである「道徳性・規範意識の芽生え」を取り上げ、幼児の具体的な姿とその育ちを支える保育者の援助のあり方について記述させることで、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

［特別支援教育分野］

問１　特別支援教育は障害のある幼児・児童・生徒に適切な支援を提供するための枠組みであるが、その支援を受ける子どもたちの不均等な配置は日本だけでなく世界中で問題となっている。こうした事例からは、障害を器質的なものとして捉える医学・心理モデルよりも社会との相互作用の中で障害が生成されるという社会モデルで捉えることが必要であると言える。特別支援教育の抱える現代的課題についての理解や社会モデルといった基礎的な知識の有無から、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

問２　いわゆる日本版 DBS の導入は国際的に見ても子どもの安全を確保するという観点から非常に重要な動きである。特に特別支援教育の対象となる子どもたちの中には身を守るという点において脆弱な立場に置かれることも少なくない。学校教育を取り巻く社会情勢への認識や批判的思考力を踏まえた記述から、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。